

町の将来のため、住民へさらに積極的な協力を

答 地権者に寄り添い、しっかりと対応していきます

今後、住民への説明は

問 国際航空物流拠点の開発事業から多くの質問があげられ町の対応を伺ってまいりましたが、開発エリアの住民から未だに説明が不十分との意見があります。町の今後の対応は。

町長 グッドマンジャパンによる個別面談を進め、その中で出された町に対する意見や要望を確認し、できる限り地権者の方々の意向を尊重し、事業の進捗を図ってまいります。



公園やカフェが併設されている印西市の同施設

問 事業計画の説明をしていただきたい旨の内容が記載された飯笹区からの要望書が提出されました。こちらの対応は。

空港地域振興室長 要望のあった地権者への説明会をグッドマンジャパンと日程調整を図り、町の同席も考えた上で1月中旬に開催を考えています。



当該地区で建設中のグッドマンの事務所

問 町も主体的になつて住民の地権者の方々の下へ足を運んで相談に乗っていただけませんか。

空港地域振興室長 体制強化をしていかなないと個人的なものは厳しいところがあります。状況を見極め、しっかりと対応してまいります。

問 事業で移転を余儀なくされた方々が、町内に移転した場合、

萩原 宏紀 議員



住宅取得奨励金の対象になりますか。

空港まちづくり課長 対象になります。基礎額は、新築の場合は20万円、中古物件を取得した場合は10万円、また、本人の状況に応じて対象額は変わります。

人材を確保するために

問 地方創生などを研究している大学へ地域おこし協力隊の募集をかけてみては。

企画政策課長 募集をかけ、現在、地域おこし協力隊インターンに大学生3名の方から申し込みをいただいています。

問 協力隊の任期終了後について、OB・OGとして活動は。

企画政策課長 多古町に定住し、各々の特技や知見を生かした活動を継続していただけると聞いています。今後も町と連携を図りながら、後進の育成や、町の魅力発信等に活躍していただきた

と考えています。

問 人材不足が深刻な地域行事や民間企業に対し、地域おこし協力隊の委嘱についてのヒアリングは。

企画政策課長 今後、協力隊の活動をさらに広げていくためにも、民間派遣や、地域により密着した活動の場を検討していくべきであると考えています。

問 道の駅多古へ地域プロジェクトマネジャーの任用は。

企画政策課長 地域と企業を結ぶ橋渡しの人材を活用することは非常に重要であると思います。制度を十分研究しながら、活用について検討してまいります。

その他の質問事項

●婚活支援事業について
●若者世代の人口流出・流入について



人材を確保・育成するために

成田財特法の期限延長要望を出すべきではないか

答 周辺自治体と連携し取り組んでまいります

公共投資、インフラ整備のため成田財特法の期限延長要望を

問 町の今後の経済発展のために、民間の消費と投資を増加しなければなりません。景気刺激策には、まず財政出動しないと考えています。

今、町道の計画や空港補償道路、農地基盤整備、各種のインフラ整備計画を進めるには財源が必要になります。4年後の令和10年度で成田財特法の期限が切れてしまいます。この法律を残すことが町の農地基盤整備、公共投資、インフラ整備にはかなりメリットがあります。成田財特法の期限延長要望をしていくべきではないでしょうか。

空港地域振興室長 船越の農地基盤整備は、成田財特法適用です。今月に開通する町道南玉造線、これも成田財特法適用で補助率がかさ上げになっています。それぞれの事業に成田財特法を今まで適用させていただいて、高い補助をいただいていたので、高い補助があります。まだ成田財特法延長の



経済効果を波及させるための道路網整備を

議論はなっていないませんが、多古町だけで考えても、今後も道路整備、さらには農地基盤整備が予定されています。そういった中で、やはり補助率のかさ上げというものは必要なものになると思います。ただ、多古町だけで延長の声を上げてても叶いませんので、これについては、成田財特法の期限が令和10年度になっていきますので、その2、3年前くらいか

宇井 伸征 議員



成田空港発展の経済効果を町の東側にも

問 町西側の経済発展の余波を東側に届けるためには、どうしたらいいのか。道路網の整備が進めば南玉造地区など町の東側まで空港発展の余波を広げていくことができるのではないかと考えています。西玉線沿いの工業団地構想や、産業拠点の次のステージのことを考えると、町を横断するアクセスの向上は非常に重要になってくると思います。町の横軸となる道路網整備について、担当課の意見を伺います。

都市整備課長

平成7年度から町道西古内・南玉造線をはじめ町道飯笹・西古内



整備が進む圏央道の(仮称)国道296号インターチェンジ

線、そして12月25日開通予定の南玉造線を整備し、これを横軸に結び、さらに県道とあわせて、町の東側と西側を連携させるということで計画しています。これは、今回の空港の機能強化が始まったということではなく、30年ほど前から、町をどのように発展させるかが非常に重要となるため、このような道路計画を進めています。今後も空港の機能強化、または圏央道の開通により、道路網はますます重要になると思いますので、引き続き関係機関と連携を図りながら、道路計画等も研究してまいりたいと考えています。